

教育実習の手引き

～連携協力校における教育実習～



宮崎大学大学院教育学研究科
教育実践開発専攻（教職大学院）

目次

I 連携協力校における教育実習の概要.....	1
<学校教育実践研究実習>	1
<学校教育実践研究実習計画例 小学校>	9
<学校教育実践研究実習計画例 中学校>	15
<学校教育実践研究実習計画例 高等学校>	21
<教育実践開発研究実習>	27
<インターンシップ実習Ⅱ>	35
II 教育実習履修の流れ（学部新卒者等の教育実習）	42
III 教育実習履修に際しての注意	43
IV 教育実習の心得と注意	44
V 教育実習の自己評価について	45
VI 各種様式.....	46

I 連携協力校における教育実習の概要

<学校教育実践研究実習>

学校教育実践研究実習実施計画

1 目 標

- 基礎能力発展実習において修得した力量のある新人教員に求められる使命感・倫理観、学級経営能力、子ども理解力及び教科等の指導力を基礎として、学校組織の一員として力量のある新人教員に求められる能力・資質及び幅広い知見を修得する。

- 2 対 象 学部新卒及び既卒学生であって既に基礎能力発展実習（3単位）を修得している者、社会人経験学生であって1種免許状に必要な単位を取得し既に基礎能力発展実習（3単位）を修得している者

- 3 単位数 3単位

- 4 実施校 連携協力校

小 学 校	江 平	西 池	本 郷	生目台東	学園木花台	加 納
中 学 校	宮 崎 東	宮 崎 西	木 花	本 郷	生 目 台	加 納
高等学校	宮崎大宮	宮 崎 南	宮 崎 西	宮 崎 北		

- 5 実施時期 第2学年 4～6月の3週間

6 オリエンテーションの時期と方法

【1年次】

- ・ 12月 連携協力校において実施する「学校教育実践研究実習」及び「教育実践開発研究実習」の趣旨及び概要等の説明と状況等調査
- ・ 2月 各院生の連携協力校の決定

【2年次】

- ・ 4月 連携協力校における直前指導
- ・ 4～6月 「学校教育実践研究実習」の実施（3週間）

7 実習の概要

修得すべき・資質能力	具体的事項	指導方法等
学校組織の一員として力量ある「新人教員」に必要な基本的能力・資質の修得	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員としての心構え ・ 教員の服務と研修 ・ 学校の教育目標と努力事項 ・ 学校の組織・運営と学校経営案 ・ 学校の教育課程の編成・実施・評価の実際 ・ 年度当初の学校事務の進め方 ・ 校務分掌と自分の役割 ・ 教員研修の実際 ・ 部活動の実際（中・高） 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○校長等による講義・講話・口頭指導 ○観察指導 ○会議等に体験参加 ○実務への参加による作業指導、作業点検指導等 ○部活動に関する講義・参観（中学校、高等学校）
力量ある「新人教員」に必要な学級経営能力・資質の修得 （基礎能力発展実習の深化・発展）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級経営案の作成の実際 ・ 年度当初の学級事務の進め方 ・ 個々の児童・生徒の理解と把握及び学級の組織づくりとその指導 ・ 学級通信の作り方 ・ 学年会への参加の仕方 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導教員による講義・講話・演習 ○体験・観察指導・作業指導・作業点検指導 ○実技指導・研究授業指導
力量ある「新人教員」に必要な子ども理解や教科等の授業力の修得 （基礎能力発展実習の深化・発展） （課題研究のための準備）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科等の年間指導計画と週案の作成 ・ 各教科等の教材研究及び開発 ・ 各教科等の指導における高度な教育技術の修得 ・ 個々の児童・生徒の理解・把握とより適切な学習指導案の研究と作成 ・ 示範授業の参観及び授業研究 ・ 研究授業の実施と授業研究（事前・事後指導を含む） ・ 課題研究の進め方、具体的な研究テーマの設定等の検討 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導教員等による講話・演習 ○観察指導 ○実技・実習指導 ○授業研究 ○研究授業指導

8 具体的計画（事例）

時期	学校組織の一員として力量ある「新人教員」に必要な基本的能力・資質の修得	力量ある「新人教員」に必要な学級経営能力・資質の修得	力量ある「新人教員」に必要な子ども理解や教科等の授業力の修得
第1週	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員としての心構え ・ 教員の服務と研修 ・ 校務分掌と自分の役割 ・ 学校の教育目標と努力事項 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の児童・生徒の理解と把握と学級の組織づくりとその指導 ・ 年度当初の学級事務の進め方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科等の年間指導計画と週案の作成 ・ 各教科等の教材研究及び開発 ・ 個々の児童・生徒の理解・把握とより適切な学習指導案の研究と作成 ・ 示範授業の参観及び授業研究 ・ 研究授業の実施と授業研究（事前・事後指導を含む）
第2週	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の組織・運営と学校経営に実際 ・ 学校の教育課程の編成・実施・評価の実際 ・ 部活動の実際（中学校、高等学校） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級通信の作り方 ・ 学年会への参加の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 示範授業の参観及び授業研究 ・ 研究授業の実施と授業研究（事前・事後指導を含む）
第3週	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度当初の学校事務の進め方 ・ 教員研修の実際 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級経営案の作成の実際 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 示範授業の参観及び授業研究 ・ 研究授業の実施と授業研究（事前・事後指導を含む） ・ （課題研究の進め方、具体的な研究テーマの設定等の検討）

（注） 各連携協力校が学校教育実践研究実習を実施する際の参考事例です。

9 評価項目と評価の観点

評価項目	具体的な評価の観点
学校組織の一員として力量ある「新人教員」に必要な基本的能力・資質	<ul style="list-style-type: none"> ① 連携協力校の教育目標や組織・運営、教員研修の実際等の理解を通して、学校組織の一員としての自覚を持つことができる。 ② 教育課程の編成・実施・評価とその実際の理解を通して、学校組織の一員として必要な基本的能力・資質を習得する。 ③ 年度当初の学校事務の進め方や校務分掌の把握を通して、学校組織

	<p>の一員としての役割を果たすことができる。</p> <p>④ 教員としての心構えやサービスを十分理解し、教員としての立場から行動することができる。</p> <p>⑤ 学校長や指導教員等のアドバイスを受け入れて良好な人間関係をつくとともに、自分の教育活動を振り返り、積極的に能力・資質の向上に取り組んでいる。</p>
<p>力量ある「新人教員」に必要な学級経営能力・資質（基礎能力発展実習の深化・発展）</p>	<p>① 年度当初の学級事務の進め方や学年会への参加の仕方等を理解し、学級担任の基礎的能力や資質を習得する。</p> <p>② 学級経営の実際や学級通信の作り方の理解を通して、学級担任としての基礎的能力や資質を習得する。</p> <p>③ 学級の一人ひとりの児童・生徒を理解するとともに、学級の組織づくりやその指導法を習得する。</p> <p>④ 問題行動等が生じた場合などに、的確に判断するとともに必要に応じて担任教諭に連絡・相談し、適切な処置や連携を取ることができる。</p> <p>⑤ 校内・教室内の環境整備や美化など、学級経営に必要な業務の能力を習得する。</p>
<p>力量ある「新人教員」に必要な子ども理解や教科等の授業力の修得（基礎能力発展実習の深化・発展） （課題研究のための準備）</p>	<p>① 各教科等の年間指導計画と週案の作成実習を通して、教科等の指導に必要な基礎的能力や資質を習得する。</p> <p>② 単元全体及び各時間の授業の目標を分析し、児童・生徒の状況に即した具体的な目標を設定することができる。</p> <p>③ 一人ひとりの児童・生徒の実態の把握に努め、その実態に応じた適切な学習指導の在り方について研究するとともに、学習指導案に具体化することができる。</p> <p>④ 児童・生徒の実態や指導内容の特質に応じた教材や教具について研究したり開発したりすることができる。</p> <p>⑤ 児童・生徒の意欲を喚起したり、学習への興味・関心を高めたり、学習活動を活発にしたりできるような適切な発問・指示・説明・示範等を行うことができる。</p> <p>⑥ 児童・生徒の学習活動を活発にしたり理解を助けたりするために、教育機器や補助資料等を適切の活用することができる。</p> <p>⑦ 示範授業の参観や優れた実践例の分析を通して、意欲的に高度な教育技術の習得に努めている。</p> <p>⑧ 児童・生徒の学習後の評価や変容を分析することによって、自己の行った授業を省察し、問題点を明らかにすることができる。</p> <p>⑨ 授業後の問題点を踏まえて、授業構成や指導方法（学習学習指導案）の改善を図ることができる。</p> <p>⑩ 得意分野の形成するために取り組む研究テーマについて、具体的な見通しを提示することができる。</p>

- ・ 評価項目「学校組織の一員として力量ある『新人教員』に必要な基本的資質・能力」の②は、部活動の意義についての理解を含む。
- ・ 部活動については、教育課程外の活動ではあるものの、学習指導要領総則に示されているとおり、教育課程と関連する事項として取り扱うこととする。
- ・ 部活動の意義についての理解は、講義・参観の実施のみとし、指導には関わらせないこととする。
- ・ テスト監督については、指導の様子を参観するのみとし、単独でのテスト監督はさせないこととする。

平成 年度 教職実践開発専攻 学校教育実践研究実習成績評価票（連携協力校実習用）

実習生氏名 平成 年度入学 コース

1. 実習校（ ） 実習期間 平成 年 月 日 ～ 月 日

実習学年		指導担当教諭	
実習教科 (中及び高)		指導担当教諭	

2. 出席状況

出席すべき 日数	出席日数	欠席日数	遅刻日数	早退日数	出勤率	備考

3. 評価の観点と到達度の評定

項目	具体的な評価の観点	評価
学校組織の一員として力量ある「新人教員」に必要な基本的能力・資質	① 連携協力校の教育目標や組織・運営、教員研修の実際等の理解を通して、学校組織の一員としての自覚を持つことができる。	1 2 3 4 5
	② 教育課程の編成・実施・評価とその実際の理解を通して、学校組織の一員として必要な基本的能力・資質を習得する。	1 2 3 4 5
	③ 年度当初の学校事務の進め方や校務分掌の把握を通して、学校組織の一員としての役割を果たすことができる。	1 2 3 4 5
	④ 教員としての心構えやサービスを十分理解し、教員としての立場から行動することができる。	1 2 3 4 5
	⑤ 学校長や指導教員等のアドバイスを受け入れて良好な人間関係をつくとともに、自分の教育活動を振り返り、積極的に能力・資質の向上に取り組んでいる。	1 2 3 4 5
力量ある「新人教員」に必要な学級経営能力・資質	① 年度当初の学級事務の進め方や学年会への参加の仕方等を理解し、学級担任の基礎的能力や資質を習得する。	1 2 3 4 5
	② 学級経営の実際や学級通信の作り方の理解を通して、学級担任としての基礎的能力や資質を習得する。	1 2 3 4 5
	③ 学級の一人ひとりの児童・生徒を理解するとともに、学級の組織づくりやその指導法を習得する。	1 2 3 4 5

	④ 問題行動等が生じた場合などに、的確に判断するとともに必要に応じて担任教諭に連絡・相談し、適切な処置や連携を取ることができる。	1 2 3 4 5
	⑤ 校内・教室内の環境整備や美化など、学級経営に必要な業務の能力を習得する。	1 2 3 4 5
力量ある「新人教員」に必要な子ども理解や教科等の授業力の修得	① 各教科等の年間指導計画と週案の作成実習をとおして、教科等の指導に必要な基礎的能力や資質を習得する。	1 2 3 4 5
	② 単元全体及び各時間の授業の目標を分析し、生徒の状況に即した具体的な目標を設定することができる。	1 2 3 4 5
	③ 一人ひとりの児童・生徒の実態の把握に努め、その実態に応じた適切な学習指導の在り方について研究するとともに、学習指導案に具体化することができる。	1 2 3 4 5
	④ 児童・生徒の実態や指導内容の特質に応じた教材や教具について研究したり開発したりすることができる。	1 2 3 4 5
	⑤ 児童・生徒の意欲を喚起し、学習への興味・関心を高めたり、学習活動を活発にしたりできるような適切な発問・指示・説明・示範等を行うことができる。	1 2 3 4 5
	⑥ 児童・生徒の学習活動を活発にしたり理解を助けたりするために、教育機器や補助資料等を適切に活用することができる。	1 2 3 4 5
	⑦ 示範授業の参観や優れた実践例の分析を通して、意欲的に高度な教育技術の習得に努めている。	1 2 3 4 5
	⑧ 児童・生徒の学習後の評価や変容を分析することによって、自己の行った授業を省察し、問題点を明らかにすることができる。	1 2 3 4 5
	⑨ 授業後の問題点を踏まえて、授業構成や指導方法（学習指導案）の改善を図ることができる。	1 2 3 4 5
	⑩ 得意分野を形成するために取り組む研究テーマについて、具体的な見通しを提示することができる。	1 2 3 4 5
特記事項		

※ 具体的な評価の観点のうち、実習中の校内学修による採点が困難なものについては、空欄にせず、関連する他の観点に関する評価を勘案して採点してください。

段 階	各段階の個数	小 計
5 4 3 2 1		
	合 計 点	

学 校 名

校 長

印

<学校教育実践研究実習計画例 小学校>

1 ねらい

本実習（学校教育実践研究実習）は、教員免許を既に取り得し、宮崎大学大学院教育学研究科教職実践開発専攻（教職大学院）で学ぶ大学院生の教育実習である。

本実習（学校教育実践研究実習）では、附属学校における「基礎能力発展実習」を終えた教育実習生を対象としている。附属学校で修得した「力量ある新人教員に求められる使命感・倫理観、学級経営能力、子ども理解力及び教科等の指導力」を基礎として、「学校組織の一員として力量のある新人教員に求められる能力・資質及び幅広い知見」を修得させる。

2 期間 平成29年5月8日（月）～5月26日（金）

※ 実習期間は、実質15日をできるだけ確保してほしい。

3 実習指導に関わる業務分担

(1) 指導業務分担

- ア 総務 教頭
- イ 企画 教務
- ウ 担当学級 5年1組 担任 □□ □□教諭 (○○ ○○ 実習生)

(2) 担当教諭の業務

- ア 学級経営全般
- イ 学習指導案の作成指導
- ウ 実習記録の点検
- エ 実習の評価

4 講話・講義等分担

1	教員としての心構え（講話）	校長
2	教員の服務と研修（講話）	教頭
3	学校の教育目標と努力事項（講義）	教務主任
4	学校の組織・運営と学校経営の実際（講義）	教務主任
5	学校の教育課程の編成・実施・評価の実際（講義）	教務主任

5 示範授業

実習生の研究教科である「算数」の授業（5年1組）

※ 略案または指導の流れをまとめた資料等による。

6 研究授業時数

【研究授業】 算数（実習学級 1時間）

授業の学習指導案は密案とし、全職員に配布する。職員はできるだけ参観する。大学教員も参加する。

【実習授業】

算数の授業を、実習学級（2時間）、6年1組（1時間）、4年2組（1時間）で、略案で行う、実習授業を計画する。必要によって、職員も参観し指導する。その他1日学級担任という形で、実習学級の授業を4日間程度担当する。

7 実習の概要

修得すべき・資質能力	具体的事項	指導方法等
学校組織の一員として力量ある「新人教員」に必要な基本的能力・資質の修得	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員としての心構え ・ 教員の服務と研修 ・ 学校の教育目標と努力事項 ・ 学校の組織・運営と学校経営案 ・ 学校の教育課程の編成・実施・評価の実際 ・ 年度当初の学校事務の進め方 ・ 校務分掌と自分の役割 ・ 教員研修の実際 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校長等による講義・講話・口頭指導 ○ 観察指導 ○ 会議等に体験参加 ○ 実務への参加による作業指導、作業点検指導等
力量ある「新人教員」に必要な学級経営能力・資質の修得 (基礎能力発展実習の深化・発展)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級経営案の作成の実際 ・ 年度当初の学級事務の進め方 ・ 個々の児童の理解と把握及び学級の組織づくりとその指導 ・ 学級通信の作り方 ・ 学年会への参加の仕方 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導教員による講義・講話・演習 ○ 体験・観察指導・作業指導・作業点検指導 ○ 実技指導・研究授業指導
力量ある「新人教員」に必要な子ども理解や教科等の授業力の修得 (基礎能力発展実習の深化・発展) (課題研究のための準備)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科等の年間指導計画と週案の作成 ・ 各教科等の教材研究及び開発 ・ 各教科等の指導における高度な教育技術の修得 ・ 個々の児童・生徒の理解・把握とより適切な学習指導案の研究と作成 ・ 示範授業の参観及び授業研究 ・ 研究授業の実施と授業研究（事前・事後指導を含む） ・ 課題研究の進め方、具体的な研究テーマの設定等の検討 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導教員等による講話・演習 ○ 観察指導 ○ 実技・実習指導 ○ 授業研究 ○ 研究授業指導

8 週計画（例）

【第1週】 5月8日（月）～5月12日（金）

	8日（月）	9日（火）	10日（水）	11日（木）	12日（金）	14日（日） PTA奉仕作業への参加
始業前	学級経営参画 （読書指導） 職員朝会参加	学年朝会	学級経営参画 （あすなろの時間）	学級経営参画 （読書指導） 職員朝会参加	学級経営参画 （ふれあいタイム）	
1	校長講話（教員と しての心構え）	実習授業1 （算数）	一日 学級 担任	学級の授業を担当	交通安全教室 （行）指導への参 画	
2	体力テスト指導 への参画	教頭講話（教員の サービスと研修）		示範授業参観 （6年1組算数）		
3	体力テスト指導 への参画	授業参観（個々の 児童の理解と把握）		授業参観（個々の 児童の理解と把握）	授業参観（個々の 児童の理解と把握）	
4	授業参観（個々の 児童の理解と把握）				示範授業参観 （3年1組算数）	
5	学習指導案作成	眼科検診 （の行）				
6		教務主任講義 （学校の教育目 標と努力事項）	職員研修への参 加	学級通信の作り 方（学級通信作 成）	市教研教科外部 会（出張手続き事 務の方法）	
放課後	企画会への参加	事後研究会（算数） 学年会への参加 週案作成実務の 解説（担当教諭）		学級通信の作り 方（学級通信作 成）	教務主任講義（学 校の組織・運営と 学校経営の実際）	

（注）（行）とは、この学校での「学校行事」を意味します。

（の行）とは、この学校での「学校の行事」を意味します。

【第2週】5月15日（月）～5月19日（金）

	15日（月）	16日（火）	17日（水）	18日（木）	19日（金）	
始業前	学級経営参画 （読書指導） 職員朝会参加	児童集会への指 導参画	学級経営参画 （あすなるの時 間）	学級経営参画 （読書指導） 職員朝会参加	学級経営参画 （ふれあいタイ ム）	
1			耳鼻科健診（の行 ）の参加、指導参 画	一 日 学 級 担 任	一 日 学 級 担 任	
2	示範授業参観 （4年2組算数）	6年1組にて実 習授業2 （算数）				実習授 業3 （算数）
3	授業参観（個々の 児童の理解と把 握）		授業参観（個々の 児童の理解と把 握）			
4						
5	教務主任講義 （学校の教育課程の編成 ・実施・評価の実際）					プール掃除指導 への参画
6	代表委員会指導 への参加		職員会への参加			学級通信の作り 方（学級通信作 成）
放課後	研究推進委員会 への参加	6の1にて事後 研究会（算数）				救急蘇生法講習 会への参加

【第3週】 5月22日（月）～5月26日（金）

	22日（月）	23日（火）	24日（水）	25日（木）	26日（金）		
始業前	学級経営参画 （読書指導） 職員朝会参加	登校班長会への 指導参画	学級経営参画 （あすなるの時 間）	学級経営参画 （読書指導） 職員朝会参加	防犯訓練事前指 導への参画		
1		一 日 学 級 担 任			一 日 学 級 担 任		
2	4年2組にて実 習授業4 （算数）					研究授業 （算数）	
3							
4							
5							プール開きの指 導への参画
6				小中連携会議へ の参加			
放課後	4の2にて事後 研究会（算数）	学年会への参加		事後研究会（算 数）「課題研究の 進め方、具体的な 研究テーマの設 定等の検討」			

＜週計画作成に当たっての配慮事項＞

- ※ 学校行事、学校の行事などにはできるだけ参加させてほしい。他の学年・学級に出かけての参加も可能な限りお願いしたい。
- ※ 参観日、学級懇談会など可能な限り経験させてほしい。時期が合わない場合はインターンシップ実習Ⅱとして対応することも可能である。
- ※ 配属学級の授業を任せる機会も持ってほしい。その際、第1週から第3週に向けて徐々に時間数が増える方が望ましい。
- ※ 本人の研究教科等については、学年、学級にかかわらず、できるだけ見せてほしい。（大学院の実習

では、各教科等を網羅して示範授業を参観させる必要はない。)

- ※ 講話・講義の内容は、宮崎県教育委員会「初任者研修の手引き」等を参照してほしい。
- ※ 「旅行命令書の書き方」などについては、附属学校の実習でも、学部時代の実習でも経験していない。このような現場において不可欠な実務を是非、教えてほしい。
(例：公文書の起案、参観日、PTA総会、教材・教具の準備の仕方、印刷機の使い方、図書室の使い方、月末統計、各種学級事務 等々)
- ※ 研究授業（注）は、実習生の研究教科を中心に4～5時間実施してほしい。
 - 第1週目 1単位時間程度
 - 第2週目 1～2単位時間程度
 - 第3週目 2単位時間程度場合によっては、他の学級で実施してもらうのもありがたい。
- (注) ここで言う研究授業には、学習指導案を伴ういわゆる「研究授業」と略案で行う「実習授業」が含まれる。学校教育実践研究実習では、「研究授業」を最低1時間、「実習授業」を3～4時間実施してほしい。
- ※ 学習指導案作成の時間を確保してもよいが、通常学級担任は、勤務時間に作成することはほぼ難しいため、それを経験させるため必ずしも確保する必要はない。
- ※ 土・日のPTA奉仕作業なども実習期間内にあれば参加させてほしい。実習期間内に予定されていない場合は、インターンシップ実習Ⅱとして対応することも可能である。
- ※ 校務部会（分掌部会）については、学校の事情や実習生の希望などを勘案して、いずれかの部会に是非、参加させてほしい。可能であれば、企画会などにも参加させてほしい。
- ※ クラブ活動、代表委員会などの特別活動については、経験が浅いため是非、指導させてほしい。
- ※ 「課題研究の進め方、具体的な研究テーマの設定等の検討」については、主に大学教員が指導するが、学校現場で指導する立場からのアドバイスもいただきたい。
- ※ その他、教務主任や実習担当職員の指導の下、学級の授業を担当したり、校務分掌に関わる実務を体験させたりする機会、あるいは他学年の授業を参観する機会等も設定できればありがたい。

<学校教育実践研究実習計画例 中学校>

1 ねらい

本実習（学校教育実践研究実習）は、教員免許を既に取り得し、宮崎大学大学院教育学研究科教職実践開発専攻（教職大学院）で学ぶ大学院生の教育実習である。

本実習（学校教育実践研究実習）では、附属学校における「基礎能力発展実習」を終えた教育実習生を対象としている。附属学校で修得した「力量ある新人教員に求められる使命感・倫理観、学級経営能力、子ども理解力及び教科等の指導力」を基礎として、「学校組織の一員として力量のある新人教員に求められる能力・資質及び幅広い知見」を修得させる。

2 期間 平成29年5月8日（月）～5月26日（金）

※ 実習期間は、実質15日をできるだけ確保してほしい。

3 実習指導に関わる業務分担

(1) 指導業務分担

ア 総務 教頭

イ 企画 教務

ウ 担当学級 ○年○組 担任 □□ □□教諭 (○○ ○○ 実習生)

(2) 担当教諭の業務

ア 学級経営全般

イ 学習指導案の作成指導

ウ 実習記録の点検

エ 実習の評価

4 講話・講義等分担

1	教員としての心構え（講話）	校長
2	教員の服務と研修（講話）	教頭
3	学校の教育目標と努力事項（講義）	教務主任
4	学校の組織・運営と学校経営の実際（講義）	教務主任
5	学校の教育課程の編成・実施・評価の実際、部活動の実際（講義）	教務主任

5 示範授業

実習生の研究教科の授業

※ 略案または指導の流れをまとめた資料等による。

6 研究授業時数

【研究授業】 附属学校の教育実習で習得した、より高度な教科指導、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間等における指導能力を応用・転化する授業（1時間）

授業の学習指導案は密案とし、全職員に配布する。職員はできるだけ参観する。大学教員も参加する。

【実習授業】

上記研究授業以外に、3～4時間の実習授業を実施する。授業の学習指導案は略案とし、必要によって職員も参観し指導する。その他、「1日学級担任」または「1日教科担任」という形で、関連する授業（教科指導、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間等）を担当する。

7 実習の概要

修得すべき・資質能力	具体的事項	指導方法等
学校組織の一員として力量ある「新人教員」に必要な基本的能力・資質の修得	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員としての心構え ・ 教員のサービスと研修 ・ 学校の教育目標と努力事項 ・ 学校の組織・運営と学校経営案 ・ 学校の教育課程の編成・実施・評価の実際 ・ 年度当初の学校事務の進め方 ・ 校務分掌と自分の役割 ・ 教員研修の実際 ・ 部活動の実際 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○校長等による講義・講話・口頭指導 ○観察指導 ○会議等に体験参加 ○実務への参加による作業指導、作業点検指導等
力量ある「新人教員」に必要な学級経営能力・資質の修得 (基礎能力発展実習の深化・発展)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級経営案の作成の実際 ・ 年度当初の学級事務の進め方 ・ 個々の生徒の理解と把握及び学級の組織づくりとその指導 ・ 学級通信の作り方 ・ 学年会への参加の仕方 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導教員による講義・講話・演習 ○体験・観察指導・作業指導・作業点検指導 ○実技指導・研究授業指導
力量ある「新人教員」に必要な子ども理解や教科等の授業力の修得 (基礎能力発展実習の深化・発展) (課題研究のための準備)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科等の年間指導計画と週案の作成 ・ 各教科等の教材研究及び開発 ・ 各教科等の指導における高度な教育技術の修得 ・ 個々の児童・生徒の理解・把握とより適切な学習指導案の研究と作成 ・ 示範授業の参観及び授業研究 ・ 研究授業の実施と授業研究（事前・事後指導を含む） ・ 課題研究の進め方、具体的な研究テーマの設定等の検討 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導教員等による講話・演習 ○観察指導 ○実技・実習指導 ○授業研究 ○研究授業指導

8 週計画（例）

【第1週】 5月8日（月）～5月12日（金）

	8日（月）	9日（火）	10日（水）	11日（木）	12日（金）	14日（日） PTA奉仕作業への参加
始業前	学級経営参画 （朝自習等） 職員朝会参加	学年集会	学級経営参画 （朝自習等）	学級経営参画 （朝自習等） 職員朝会参加	学級経営参画 （朝自習等）	
1	校長講話(教員としての心構え)	授業参観(個々の生徒の理解と把握)	一日学級・教科担任			
2	体力テスト指導への参画	教頭講話(教員の服務と研修)		示範授業参観(2年2組社会)	授業参観(個々の生徒の理解と把握)	
3	体力テスト指導への参画			授業参観(個々の生徒の理解と把握)		
4	授業参観(個々の生徒の理解と把握)	実習授業1(社会)			示範授業参観(2年3組社会)	
5	生徒総会の参観	内科検診(学級担任の指導を参観)		示範授業参観(3年1組社会)		
6	生徒総会の参観	教務主任講義(学校の教育目標と努力事項)	職員研修への参加	学級通信の作り方(学級通信作成)	市教研教科外部会(出張手続き事務の方法)	
放課後		事後研究会(社会) 学年会への参加 週案作成実務の解説(担当教諭)		学級通信の作り方(学級通信作成)	教務主任講義(学校の組織・運営と学校経営の実際)	

【第2週】 5月15日（月）～5月19日（金）

	15日（月）	16日（火）	17日（水）	18日（木）	19日（金）	
始業前	学級経営参画 （朝自習等） 職員朝会参加	学級経営参画 （朝自習等）	学級経営参画 （朝自習等）	学級経営参画 （朝自習等） 職員朝会参加	学級経営参画 （朝自習等）	
1			耳鼻科健診（学級 担任の指導を参 観）	一 日 学 級 ・ 教 科 担 任	一 日 学 級 ・ 教 科 担 任	
2	示範授業参観 （1年2組 社 会）	実習授業2 （社会）				実習授 業3 （社会）
3	授業参観（個々の 生徒の理解と把 握）		授業参観（個々の 生徒の理解と把 握）			
4						
5	教務主任講義 （学校の教育課程の編成・実施・ 評価の実際、部活動の実際）	鑑賞教室（学級担 任の指導）の参観				
6	専門委員会の参 観	鑑賞教室（学級担 任の指導）の参観	職員会への参加			学級通信の作り 方（学級通信作 成）
放課後	部活動の参観	事後研究会 （社会）				救急蘇生法講習 会への参加

【第3週】 5月22日（月）～5月26日（金）

	22日（月）	23日（火）	24日（水）	25日（木）	26日（金）	
始業前	学級経営参画 （読書指導） 職員朝会参加	学級経営参画 （読書指導）	学級経営参画 （読書指導）	学級経営参画 （読書指導） 職員朝会参加	学級経営参画 （読書指導）	
1	一日学級・教科担任			中間テスト （指導の様子を 参観）	中間テスト	
2		実習授業 4（社会）	研究授業 （社会）		中間テスト （指導の様子を 参観）	中間テスト
3						中間テスト
4						
5			示範授業（1年3 組 社会）		総合的な学習の 時間の参観	避難訓練（学級担 任の指導）の参観
6				学年会への参加		
放課後	事後研究会 （社会）	事後研究会 （社会） 「課題研究の進め方、具体的な研 究テーマの設定等の検討」		部活動の参観		

<週計画作成に当たっての配慮事項>

- ※ 学校行事、学校の行事などにはできるだけ参加させてほしい。他の学年・学級に出かけての参加も可能な限りお願いしたい。
- ※ 参観日、学級懇談会など可能な限り経験させてほしい。時期が合わない場合はインターンシップ実習Ⅱとして対応することも可能である。
- ※ 研究教科（専門教科）に限らず、配属学級の道徳、特別活動、総合的な学習の時間等を任せる機会も持ってほしい。その際、できれば第1週から第3週に向けて、徐々に時間数が増える方が望ましい。
- ※ 本人の研究教科等については、学級にかかわらず、できるだけ見せてほしい。（大学院の実習では、各教科等を網羅して示範授業を参観させる必要はない。）

- ※ 講話・講義の内容は、宮崎県教育委員会「初任者研修の手引き」等を参照してほしい。
- ※ 「旅行命令書の書き方」などについては、附属学校の実習でも、学部時代の実習でも経験していない。このような現場において不可欠な実務を是非、教えてほしい。
(例：公文書の起案、参観日、PTA総会、教材・教具の準備の仕方、印刷機の使い方、図書室の使い方、月末統計、各種学級事務 等々)
- ※ 研究授業（注）は、実習生の研究教科を中心に4～5時間実施してほしい。
第1週目 1単位時間程度
第2週目 1～2単位時間程度
第3週目 2単位時間程度 場合によっては、他の学級で実施してもらいたい
- （注） ここで言う研究授業には、学習指導案を伴ういわゆる「研究授業」と略案で行う「実習授業」が含まれる。学校教育実践研究実習では、「研究授業」を最低1時間、「実習授業」を3～4時間実施してほしい。
- ※ 学習指導案作成の時間を確保してもよいが、通常学級担任は、勤務時間に作成することはほぼ難しいため、それを経験させるため必ずしも確保する必要はない。
- ※ 土・日のPTA奉仕作業なども実習期間内にあれば参加させてほしい。実習期間内に予定されていない場合は、インターンシップ実習Ⅱとして対応することも可能である。
- ※ 校務部会（分掌部会）については、学校の事情や実習生の希望などを勘案して、いずれかの部会に是非、参加させてほしい。可能であれば、企画会などにも参加させてほしい。
- ※ 特別活動については、経験が浅いため是非、指導させてほしい。
- ※ 「課題研究の進め方、具体的な研究テーマの設定等の検討」については、主に大学教員が指導するが、学校現場で指導する立場からのアドバイスもいただきたい。
- ※ その他、教務主任や実習担当職員の指導の下、学級の授業を担当したり、校務分掌に関わる実務を体験させたりする機会、あるいは他学年の授業を参観する機会等も設定できればありがたい。
- ※ 中間テストが期間中に予定されている場合、テスト直前の実習生の指導が、結果として学級間格差を生む可能性はないか等の配慮、調整をお願いしたい。
- ※ 部活動については、講義と放課後の参観によりその意義を理解させるようお願いしたい。（部活動指導はさせない。）
- ※ テスト監督については、指導の様子を参観するのみとし、単独でのテスト監督は、させないこととする。

<学校教育実践研究実習計画例 高等学校>

1 ねらい

本実習（学校教育実践研究実習）は、教員免許を既に取り得し、宮崎大学大学院教育学研究科教職実践開発専攻（教職大学院）で学ぶ大学院生の教育実習である。

本実習（学校教育実践研究実習）では、附属学校における「基礎能力発展実習」を終えた教育実習生を対象としている。附属学校で修得した「力量ある新人教員に求められる使命感・倫理観、学級経営能力、子ども理解力及び教科等の指導力」を基礎として、「学校組織一員として力量のある新人教員に求められる能力・資質及び幅広い知見」を修得させる。

2 期 間 平成29年6月5日（月）～6月23日（金）

※ 実習期間は、実質15日をできるだけ確保してほしい。

3 実習指導に関わる業務分担

(1) 指導業務分担

ア 総務 副校長（教 頭）

イ 企画 教 務

ウ 担当学級 ○年○組 担任 □□ □□教諭（○○ ○○ 実習生）

(2) 担当教諭の業務

ア 学級経営全般

イ 学習指導案の作成指導

ウ 実習記録の点検

エ 実習の評価

4 講話・講義等分担

1	教員としての心構え（講話）	校 長
2	教員の服務と研修（講話）	副 校 長 (教 頭)
3	学校の教育目標と努力事項（講義）	教務主任
4	学校の組織・運営と学校経営の実際（講義）	教務主任
5	学校の教育課程の編成・実施・評価の実際、部活動の実際（講義）	教務主任

5 示範授業

実習生の研究教科の授業

※ 略案または指導の流れをまとめた資料等による。

6 研究授業時数

【研究授業】 附属学校の教育実習で習得した、より高度な教科指導、LHR、特別活動及び総合的な学習の時間等における指導能力を応用・転化する授業（1時間）

授業の学習指導案は密案とし、全職員に配布する。職員はできるだけ参観する。大学教員も参加する。

【実習授業】

上記研究授業以外に、3～4時間の実習授業を実施する。

授業の学習指導案は略案とし、必要によって職員も参観し指導する。その他、「1日学級担任」または「1日教科担任」という形で、関連する授業（教科指導、LHR、特別活動及び総合的な学習の時間等）を担当する。

7 実習の概要

修得すべき・資質能力	具体的事項	指導方法等
学校組織の一員として力量ある「新人教員」に必要な基本的能力・資質の修得	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員としての心構え ・ 教員の服務と研修 ・ 学校の教育目標と努力事項 ・ 学校の組織・運営と学校経営案 ・ 学校の教育課程の編成・実施・評価の実際 ・ 年度当初の学校事務の進め方 ・ 校務分掌と自分の役割 ・ 教員研修の実際 ・ 部活動の実際 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校長等による講義・講話・口頭指導 ○ 観察指導 ○ 会議等に体験参加 ○ 実務への参加による作業指導、作業点検指導等
力量ある「新人教員」に必要な学級経営能力・資質の修得 (基礎能力発展実習の深化・発展)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度当初の学級事務の進め方 ・ 個々の生徒の理解と把握及び学級の組織づくりとその指導 ・ 学級通信の作り方 ・ 学年会への参加の仕方 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導教員による講義・講話・演習 ○ 体験・観察指導・作業指導・作業点検指導 ○ 実技指導・研究授業指導
力量ある「新人教員」に必要な子ども理解や教科等の授業力の修得 (基礎能力発展実習の深化・発展) (課題研究のための準備)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科等の年間指導計画と週案の作成 ・ 各教科等の教材研究及び開発 ・ 各教科等の指導における高度な教育技術の修得 ・ 個々の児童・生徒の理解・把握とより適切な学習指導案の研究と作成 ・ 示範授業の参観及び授業研究 ・ 研究授業の実施と授業研究（事前・事後指導を含む） ・ 課題研究の進め方、具体的な研究テーマの設定等の検討 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導教員等による講話・演習 ○ 観察指導 ○ 実技・実習指導 ○ 授業研究 ○ 研究授業指導

8 週計画（例）

【第1週】 6月5日（月）～6月9日（金）

	5日（月）	6日（火）	7日（水）	8日（木）	9日（金）
始業前	学級経営参画 （朝課外等） 職員朝会参加		学級経営参画 （朝課外等）	学級経営参画 （朝課外等）	学級経営参画 （朝課外等）
1	校長講話（教員と しての心構え）	授業参観（個々の 生徒の理解と把握）	一 日 学 級 ・ 教 科 担 任		
2		副校長・教頭講話 （教員の服務と 研修）		示範授業参観（2 年2組 日本史）	授業参観（個々の 生徒の理解と把握）
3				授業参観（個々の 生徒の理解と把握）	
4	授業参観（個々の 生徒の理解と把握）	実習授業1 （日本史）			示範授業参観（2 年3組 日本史）
5	生徒総会の参観	耳鼻科検診（学級 担任の指導を参観）			示範授業参観（3 年1組 日本史）
6	生徒総会の参観	教務主任講義（学 校の教育目標と 努力事項）			学級通信の作り 方（学級通信作 成）
7		週案作成実務の 解説（担当教諭）			教務主任講義（学 校の組織・運営と 学校経営の実際）
放課後		事後研究会 （日本史） 学年会への参加	職員研修への参 加		

11日（日） PTA奉仕作業への参加

【第2週】 6月12日（月）～6月16日（金）

	12日（月）	13日（火）	14日（水）	15日（木）	16日（金）	
始業前	学級経営参画 （朝課外等） 職員朝会参加	学級経営参画 （朝課外等）	学級経営参画 （朝課外等）	学級経営参画 （朝課外等）	学級経営参画 （朝課外等）	
1			歯科健診（学級担任の指導を参観）	一日学級・教科担任	一日学級・教科担任	
2	示範授業参観（1年2組 日本史）	実習授業2（日本史）				実習授業3（日本史）
3	授業参観（個々の生徒の理解と把握）		授業参観（個々の生徒の理解と把握）			
4						
5	教務主任講義 （学校の教育課程の編成・実施・評価の実際、部活動の実際）					
6	各種委員会の参観		職員会への参加			学級通信の作り方（学級通信作成）
7						
放課後	部活動の参観	事後研究会（日本史）		救急蘇生法講習会への参加	事後研究会（日本史）	

【第3週】 6月19日（月）～6月23日（金）

	19日（月）	20日（火）	21日（水）	22日（木）	23日（金）	
始業前	学級経営参画 （読書指導） 職員朝会参加	学級経営参画 （読書指導）	学級経営参画 （読書指導）	学級経営参画 （読書指導）	学級経営参画 （読書指導）	
1	一 日 学 級 ・ 教 科 担 任			期末考査 （指導の様子を 参観）	期末考査 （指導の様子を 参観）	
2		実習授 業4 （日本史）	研究授業（日本 史）	期末考査 （指導の様子を 参観）	期末考査	
3					期末考査	
4						
5			示範授業（1年3 組 日本史）		生徒会総務委員 交代式参観	避難訓練（学級担 任の指導）の参観
6						
7						
放課後	事後研究会 （日本史） 期末考査作問検 討会	事後研究会 （日本史）	学年会への参加	「課題研究の進 め方、具体的な研 究テーマの設定 等の検討」	期末考査分析検 討会	

＜週計画作成に当たっての配慮事項＞

- ※ 学校行事、学校の行事などにはできるだけ参加させてほしい。他の学年・学級に出かけての参加も可能な限りお願いしたい。
- ※ 参観日、学級懇談会など可能な限り経験させてほしい。時期が合わない場合はインターンシップ実習Ⅱとして対応することも可能である。
- ※ 研究教科（専門教科）に限らず、配属学級のLHR、特別活動、総合的な学習の時間等を任せる会

- も持ってほしい。その際、できれば第1週から第3週に向けて、徐々に時間数が増える方が望ましい。
- ※ 本人の研究教科等については、学級にかかわらず、できるだけ見せてほしい。(大学院の実習では、各教科等を網羅して示範授業を参観させる必要はない。)
 - ※ 講話・講義の内容は、宮崎県教育委員会「初任者研修の手引き」等を参照してほしい。
 - ※ 「旅行命令書の書き方」などについては、附属学校の実習でも、学部時代の実習でも経験していない。このような現場において不可欠な実務を是非、教えてほしい。
(例：公文書の起案、参観日、PTA総会、教材・教具の準備の仕方、印刷機の使い方、図書室の使い方、月末統計、各種学級事務 等々)
 - ※ 研究授業(注)は、実習生の研究教科を中心に4～5時間実施してほしい。
 - 第1週目 1単位時間程度
 - 第2週目 1～2単位時間程度
 - 第3週目 2単位時間程度場合によっては、他の学級で実施してもらうのもありがたい
 - (注) ここで言う研究授業には、学習指導案を伴ういわゆる「研究授業」と略案で行う「実習授業」が含まれる。学校教育実践研究実習では、「研究授業」を最低1時間、「実習授業」を3～4時間実施してほしい。
 - ※ 学習指導案作成の時間を確保してもよいが、通常学級担任は、勤務時間に作成することはほぼ難しいため、それを経験させるため必ずしも確保する必要はない。
 - ※ 土・日のPTA奉仕作業なども実習期間内にあれば参加させてほしい。実習期間内に予定されていない場合は、インターンシップ実習Ⅱとして対応することも可能である。
 - ※ 校務部会(分掌部会)については、学校の事情や実習生の希望などを勘案して、いずれかの部会に是非、参加させてほしい。可能であれば、企画会などにも参加させてほしい。
 - ※ LHRや特別活動については、経験が浅いため是非、指導させてほしい。
 - ※ 「課題研究の進め方、具体的な研究テーマの設定等の検討」については、主に大学教員が指導するが、学校現場で指導する立場からのアドバイスもいただきたい。
 - ※ その他、教務主任や実習担当職員の指導の下、学級の授業を担当したり、校務分掌に関わる実務を体験させたりする機会、あるいは他学年の授業を参観する機会等も設定できればありがたい。
 - ※ 期末考査が期間中に予定されている場合、テスト直前の実習生の指導が、結果として学級間格差を生む可能性はないか等の配慮、調整をお願いしたい。
 - ※ 部活動については、講義と放課後の参観によりその意義を理解させるようお願いしたい。(部活動指導はさせない。)
 - ※ テスト監督については、指導の様子を参観するのみとし、単独でのテスト監督は、させないこととする。

<教育実践開発研究実習>

教育実践開発研究実習実施計画（小学校・中学校・高等学校共通）

1 目 標

- 基礎能力発展実習及び学校教育実践研究実習において修得した学校組織の一員として力量ある新人教員に必要な基本的能力・資質、学級経営能力・資質及び子ども理解や教科等の授業力・指導力を基礎として、個人として得意分野に関するより高度な能力の修得及び幅広い知見を修得する。

- #### 2 対 象
- 学部新卒及び既卒学生であって既に基礎能力発展実習（3単位）を修得している者、社会人経験学生であって1種免許状に必要な単位を取得し既に基礎能力発展実習（3単位）及び学校教育実践研究実習（3単位）を修得している者

- #### 3 単位数
- 4単位

- #### 4 実施校
- 連携協力校

小学校	江 平	西 池	本 郷	生目台東	学園木花台	加 納
中学校	宮崎東	宮崎西	木 花	本 郷	生 目 台	加 納
高等学校	宮崎大宮	宮崎南	宮崎西	宮崎北		

- #### 5 実施時期
- 第2学年 11月の4週間

6 実習の概要

修得すべき能力・資質	具体的事項	指導方法等
力量ある「新人教員」として学校が取り組む研究課題の解決能力や得意分野における能力・資質の修得	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題研究テーマの進捗状況の確認 ・ 具体的な検証授業等の準備 ・ 検証と事後評価（再検証－評価） ・ テストの作成と評価の仕方 ・ 研究のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ○協議 ○検証授業等 ○事後評価活動 ○まとめ
学校組織の一員として力量ある「新人教員」に必要な基本的能力・資質の修得（学校教育実践研究実習の追加及び発展の内容）	<p>[学校教育実践実習の追加及び発展の項目設定]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人権教育についての考え方と推進の在り方 ・ 学校保健・安全指導の進め方 ・ 給食指導の進め方 ・ 備品等の管理と活用 ・ 薬物乱用防止教育について ・ 学校の環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○校長等による講義・講話・口頭指導 ○観察指導 ○会議等に体験参加 ○実務への参加による作業指導、作業点検指導等

	・問題行動に関する対応と事例研究	
力量ある「新人教員」に必要な学級経営能力・資質の修得（基礎能力発展実習及び学校教育実践研究実習の深化・発展）	[学校教育実践実習の発展の項目設定] ・教室環境設営の進め方 ・学級集団の指導の進め方 ・家庭訪問の進め方 ・保護者会の進め方 ・通信簿の作成に向けた学級事務(評価のための資料収集等)の進め方 ・保護者との面談の進め方	○指導教員による講義・講話・演習 ○体験・観察指導・作業指導・作業点検指導 ○実技指導・研究授業指導
力量ある「新人教員」に必要な子ども理解や教科等の授業力の修得（基礎能力発展実習及び学校教育実践研究実習の深化・発展）	[学校教育実践実習の発展の項目設定] ・教育機器等の活用 ・特別活動の指導の実際 ・学校図書館の利用指導 ・総合的な学習の時間の指導の実際 ・主体的な学習態度の形成の指導 ・児童・生徒のほめ方・叱り方 ・集団指導の実際 ＊各教科等の年間指導計画と週案の作成 ＊各教科等の教材研究及び開発 ＊各教科等の指導における高度な教育技術の修得 ＊個々の児童・生徒の理解と把握及び学級の組織作りとその指導 ＊示範授業の参観及び授業研究 ＊研究授業の実施と授業研究（事前・事後指導を含む）	○指導教員等による講話・演習 ○観察指導 ○実技・実習指導 ○授業研究 ○研究授業指導

7 具体的計画（事例）

時期	力量ある「新人教員」として学校が取り組む研究課題の解決能力や得意分野における能力・資質の修得	学校組織の一員として力量ある「新人教員」に必要な基本的能力・資質の修得	力量ある「新人教員」に必要な学級経営能力・資質の修得	力量ある「新人教員」に必要な子ども理解や教科等の授業力の修得
第1週	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究テーマの進捗状況の確認 ・具体的な検証授業等の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育 ・学校保健・安全指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室環境設営の進め方 ・学級集団の指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の指導と実際 ・特別活動の指導と実際
第2週	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な検証授業等の準備 ・検証と事後評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食指導 ・薬物乱用防止教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問、保護者会の進め方 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育機器等の活用 ・学校図書館の利用指導
第3週	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な検証授業等の準備 ・検証と事後評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・備品等の管理と活用 ・学校の教育環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との面談 ・通信簿の作成に向けた学級事務（評価のための資料収集等）の進め方 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団指導の実際 ・児童・生徒のほめ方・叱り方
第4週	<ul style="list-style-type: none"> ・研究のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動の関する対応と事例研究 		<ul style="list-style-type: none"> ・テストの作成と評価の在り方

（注） 各学校で教育実践開発研究実習を実施する際の参考事例です。

「力量ある新人教員に必要な子ども理解や教科等の授業力の修得」の「各教科等の教材研究及び開発」、「各教科等の指導における高度な教育技術の修得」、「個々の児童・生徒の理解と把握及び学級の組織づくりとその指導」、「示範授業の参観及び授業研究」、「研究授業の実施と授業研究（事前・事後指導を含む）」の項目の週単位指導は、学校教育実践研究実習の指導に準ずる。

8 評価項目と評価の観点

評価項目	具体的な評価の観点
<p>力量ある「新人教員」として学校が取り組む研究課題の解決能力や得意分野における能力・資質</p>	<p>① 得意分野を形成するために取り組んでいる研究テーマが、学校教育実践研究実習以降、授業等を通して検証できるレベルに具体化され、準備が整えられている。</p> <p>② 指導教員の助言を受けて、研究テーマの検証としての授業計画等を、より適切なものとし、実践することができる。</p> <p>③ 児童・生徒の学習後の評価や変容を分析することによって、自己の行った研究テーマに関する授業等を省察し、問題点を明らかにすることができる。</p> <p>④ 研究テーマに関わる授業後の問題点を踏まえて、授業構成や指導方法等（学習学習指導案等）の改善を図ることができる。</p> <p>⑤ 得意分野を形成するために取り組んでいる研究テーマのまとめについて、具体的な見通しを提示することができる。</p>
<p>学校組織の一員として力量ある「新人教員」に必要な基本的能力・資質</p>	<p>① 学校組織である連携協力校の一員としての自覚を持って行動することができる。</p> <p>② 教員としての心構えやサービスを十分理解し、教員としての立場から行動することができる。</p> <p>③ 学校長や指導教員等のアドバイスを受け入れて良好な人間関係をつくとともに、自分の教育活動を振り返り、積極的に能力・資質の向上に取り組んでいる。</p> <p>④ 人権教育や学校保健・安全指導、給食指導及び薬物乱用防止教育の考え方や進め方について理解を深めるとともに、実践の中で生かすことができる。</p> <p>⑤ 備品等の管理と活用及び学校の教育環境づくりについて理解を深めるとともに、実践の中で生かすことができる。</p>
<p>力量ある「新人教員」に必要な学級経営能力・資質</p>	<p>① 学級集団の指導の進め方について理解を深め、授業の中や学級会等で生かしたり、実践したりすることができる。</p> <p>② 家庭訪問や保護者会及び保護者との面談の進め方、通信簿の作成に向けた学級事務の進め方の理解を通して、学級担任として必要とされる基礎的能力や資質を習得する。</p> <p>③ 学級の一人ひとりの児童・生徒をより深く理解するとともに、学級の組織づくりやその指導に関わり、学級担任としての基礎的能力や資質を習得する。</p> <p>④ 問題行動等が生じた場合などに、的確に判断するとともに必要に応じて担任教諭に連絡・相談し、より適切な処置や連携を取ることができるようになる。</p> <p>⑤ 学校・教室内の設営や環境整備、美化など、学級経営に必要な業務</p>

	の能力をより高度なものとする。
力量ある「新人教員」に必要な子ども理解や教科等の授業力	<p>① 「総合的な時間」や特別活動、主体的な学習態度の形成、集団指導及び児童・生徒のほめ方・叱り方の指導や実際について理解を深めるとともに、実践の中で生かすことができる。</p> <p>② 児童・生徒の理解を助けるために、教育機器や学校図書館等を適切に活用することができる。</p> <p>③ 一人ひとりの児童・生徒の実態の把握に努め、その実態に応じたより適切な学習指導の在り方について研究するとともに、学習指導案に具体化することができる。</p> <p>④ 児童・生徒の実態や指導内容の特質に応じた教材や教具について、より深く研究したり開発したりすることができる。</p> <p>⑤ 児童・生徒の意欲を喚起し、学習への興味・関心を高めたり、学習活動を活発にしたりすることができるように、より適切な発問・指示・説明・示範等の研究を進めることができる。</p>

平成 年度 教職実践開発専攻 教育実践開発研究実習成績評価票（連携協力校実習用）

実習生氏名 平成 年度入学 コース

1. 実習校（ ） 実習期間 平成 年 月 日 ～ 月 日

実習学年		指導担当教諭	
実習教科 (中高)		指導担当教諭	

2. 出席状況

出席すべき 日数	出席日数	欠席日数	遅刻日数	早退日数	出勤率	備考

3. 評価の観点と到達度の評定

項目	具体的な評価の観点	評価
力量ある「新人教員」として学校が取り組む研究課題の解決能力や得意分野における能力・資質	① 得意分野の形成するために取り組んでいる研究テーマが、学校教育実践研究実習以降、授業等を通して検証できるレベルに具体化され、準備が整えられている。	1 2 3 4 5
	② 指導教員の助言を受けて、研究テーマの検証としての授業計画等を、より適切なものとし、実践することができる。	1 2 3 4 5
	③ 児童・生徒の学習後の評価や変容を分析することによって、自己の行った研究テーマに関する授業等を省察し、問題点を明らかにすることができる。	1 2 3 4 5
	④ 研究テーマに関わる授業後の問題点を踏まえて、授業構成や指導方法等（学習学習指導案等）の改善を図ることができる。	1 2 3 4 5
	⑤ 得意分野の形成するために取り組んでいる研究テーマのまとめについて、具体的な見通しを提示することができる。	1 2 3 4 5
学校組織の一員として力量ある「新人教員」に必要な基	① 学校組織である連携協力校の一員としての自覚を持って行動することができる。	1 2 3 4 5
	② 教員としての心構えやサービスを十分理解し、教員としての立場から行動することができる。	1 2 3 4 5

本的能力・資質	③ 学校長や指導教員等のアドバイスを受け入れて良好な人間関係をつくとともに、自分の教育活動を振り返り、積極的に能力・資質の向上に取り組んでいる。	1 2 3 4 5
	④ 人権教育や学校保健・安全指導、給食指導及び薬物乱用防止教育の考え方や進め方について理解を深めるとともに、実践の中で生かすことができる。	1 2 3 4 5
	⑤ 備品等の管理と活用及び学校の教育環境づくりについて理解を深めるとともに、実践の中で生かすことができる。	1 2 3 4 5
力量ある「新人教員」に必要な学級経営能力・資質	① 学級集団の指導の進め方について理解を深め、授業の中や学級会等で生かしたり、実践したりすることができる。	1 2 3 4 5
	② 家庭訪問や保護者会及び保護者との面談の進め方、通信簿の作成に向けた学級事務の進め方の理解を通して、学級担任として必要とされる基礎的能力や資質を習得する。	1 2 3 4 5
	③ 学級の一人ひとりの児童・生徒をより深く理解するとともに、学級の組織づくりやその指導に関わり、学級担任としての基礎的能力や資質を習得する。	1 2 3 4 5
	④ 問題行動等が生じた場合などに、的確に判断するとともに必要に応じて担任教諭に連絡・相談し、より適切な処置や連携を取ることができるようになる。	1 2 3 4 5
	⑤ 学校・教室内の設営や環境整備、美化など、学級経営に必要な業務の能力をより高度なものとする。	1 2 3 4 5
力量ある「新人教員」に必要な子ども理解や教科等の授業力	① 総合的な学習の時間や特別活動、主体的な学習態度の形成、集団指導及び生徒のほめ方・叱り方の指導や実際について理解を深めるとともに、実践の中で生かすことができる。	1 2 3 4 5
	② 児童・生徒の理解を助けるために、教育機器や学校図書館等を適切に活用することができる。	1 2 3 4 5
	③ 一人ひとりの児童・生徒の実態の把握に努め、その実態に応じたより適切な学習指導の在り方について研究するとともに、学習指導案に具体化することができる。	1 2 3 4 5
	④ 児童・生徒の実態や指導内容の特質に応じた教材や教具について、より深く研究したり開発したりすることができる。	1 2 3 4 5
	⑤ 児童・生徒の意欲を喚起したり、学習への興味・関心を高めたり、学習活動を活発にしたりすることができるように、より適切な発問・指示・説明・示範等の研究を進めることができる。	1 2 3 4 5

特記事項	
------	--

※ 具体的な評価の観点のうち、実習中の校内学修による採点が困難なものについては、空欄にせず、関連する他の観点に関する評価を勘案して採点してください。

段 階	各段階の個数	小 計
5		
4		
3		
2		
1		
	合 計 点	

学 校 名

校 長



<インターンシップ実習Ⅱ>

インターンシップ実習Ⅱの実施計画

1 目 標

基礎能力発展実習や学校教育実践研究実習において修得した力量のある新人教員に求められる使命感・倫理観、学級経営能力、子ども理解力及び教科等の指導力を、小・中・高等学校、特別支援学校、宮崎県教育研修センター、宮崎市教育情報研修センター、その他専攻会議が適切であると認める学外教育諸団体における児童・生徒を対象とした教育活動や研修講座等に体験参加したり参加したりすることを通して、学校づくりの有力な一員としての資質をより確かなものにするをねらいとする。

2 対 象

学部新卒及び既卒学生であって既に基礎能力発展実習（3単位）を修得している者、社会人経験学生であって1種免許状に必要な単位を取得し既に基礎能力発展実習（3単位）を修得している者

3 単位数 1単位（45時間）

4 実施施設及び学校

○ 連携協力校

小学校	江 平	西 池	本 郷	生目台東	学園木花台	加 納
中学校	宮崎東	宮崎西	木 花	本 郷	生 目 台	加 納
高等学校	宮崎大宮	宮崎南	宮崎西	宮崎北		

- その他の公立小・中・高等学校、特別支援学校
- 私立中・高等学校
- 宮崎県教育研修センター
- 宮崎市教育情報研修センター
- その他、専攻会議が適切であると認める学外教育諸団体

5 対象となる活動

- 連携協力校、公立小・中・高等学校、特別支援学校、私立中・高等学校等において指導教員の監督のもとに実施する教育補助業務。但し、謝金等の金銭受取が発生するものおよび部活動指導は対象外とする。

- 例)
- ・授業補助
 - ・放課後学習指導
 - ・土曜学級指導
 - ・クラブ活動指導
 - ・運動会等補助

6 実施時期： 第2学年 6～1月

7 受講の手続き

【1年次】

- ・ 受講希望者は、原則として1月末日までに実施施設・学校等と連絡を取り、実施の可否や予定される業務の内容について確認の上、インターンシップ実習Ⅱ受講願（別紙①）を作成し、教職大学院連携協力校教育実習運営委員会に提出する。
- ・ 教職大学院連携協力校教育実習運営委員会は、提出されたインターンシップ実習Ⅱ計画表を精査し、実施の可否を専攻会議に諮る。

【2年次】

- ・ 受講希望者は4月に科目登録を行う。
- ・ 教職大学院連携協力校教育実習運営委員会は、受講希望者の科目登録を確認する。
- ・ 受講希望者は、原則として5月末日までに実施施設・学校等と連絡を取り、教育・履修指導教員の指導のもとインターンシップ実習Ⅱ計画案（別紙②）を作成する。
- ・ 作成した計画案を実施施設・学校等に提出し、確認を受けたのち、教務・学生支援係に提出する。
- ・ 6月以降、インターンシップ実習Ⅱ実施。
- ・ 受講者は、実施日ごとにインターンシップ実習生記録簿（別紙③）に実習内容を記録し、実施施設監督者の認印を得る。
- ・ 受講者は1月末日までに、教育・履修指導教員の指導のもとインターンシップ実習Ⅱ報告書（別紙④）を作成し、教職大学院連携協力校教育実習運営委員会に提出する。
- ・ 教職大学院連携協力校教育実習運営委員会は、インターンシップ実習Ⅱ報告書に基づきインターンシップ実習Ⅱ成績評価票を作成する。

8 実習の概要

○ 連携協力校で実施する場合

深化・発展させる資質能力	深化・発展させて欲しい項目	指導方法等
力量ある「新人教員」に必要な子ども理解や教科等の授業力 (基礎能力発展実習及び学校教育実践研究の深化・発展)	[基礎能力発展実習及び学校教育実践研究の深化・発展] ・集団指導と個別指導 ・特別活動の全体計画及び反省と評価	○指導教員等による講義・講話・口頭指導 ○観察指導 ○会議等に体験参加 ○実務への参加による作業指導、作業点検指導等
力量ある「新人教員」に必要な学級経営能力・資質 (基礎能力発展実習の深化・発展及び学校教育実践研究の深化・発展)	[基礎能力発展実習及び学校教育実践研究の深化・発展] ・学校における教育相談の進め方 ・学校における進路指導の意義と実際 ・学校における生徒指導体制 ・学年会への参加の仕方 ・年度末の学級事務処理の仕方	○指導教員による講義・講話 ○会議等に体験参加 ○実務への参加による作業指導、作業点検指導等
学校組織の一員として力量ある「新人教員」に必要な基本的能力・資質(学校教育実践研究の深化・発展)	[基礎能力発展実習及び学校教育実践研究の深化・発展] ・給食指導・食に関する指導の進め方 ・性教育の考え方と進め方 ・家庭・地域の果たす教育力や生涯学習社会における学校の役割 ・PTAの組織と運営 ・学校週5日制実施上の学校での課題	○指導教員等による講話・演習 ○会議等に体験参加 ○実務への参加による作業指導、作業点検指導等

* 深化・発展させて欲しい項目と宮崎県教育委員会の初任者研修において実施する項目の関係は、別紙様式3参照のこと。

○ 宮崎県教育研修センター及び宮崎市教育情報研修センターで実施する場合

深化・発展させる資質能力	深化・発展させて欲しい項目	指導方法等
力量ある「新人教員」に必要な子ども理解や教科等の授業力 (基礎能力発展実習及び	[基礎能力発展実習及び学校教育実践研究の深化・発展] (具体的には、宮崎県・宮崎市の教育研修施設のプログラムに即して決定す	○指導主事等による講義・講話・口頭指導 ○観察指導

学校教育実践研究の深化・発展)	る)	○実務への参加による作業指導、作業点検指導等
力量ある「新人教員」に必要な学級経営能力・資質の修得 (基礎能力発展実習の深化・発展及び学校教育実践研究の深化・発展)	[基礎能力発展実習及び学校教育実践研究の深化・発展] (具体的には、宮崎県・宮崎市の教育研修施設のプログラムに即して決定する)	○指導主事等による講義・講話・口頭指導 ○観察指導 ○実務への参加による作業指導、作業点検指導等
力量ある「新人教員」に必要な学級経営能力・資質の修得 (基礎能力発展実習の深化・発展及び学校教育実践研究の深化・発展)	[基礎能力発展実習及び学校教育実践研究の深化・発展] (具体的には、宮崎県・宮崎市の教育研修施設のプログラムに即して決定する)	○指導主事等による講義・講話・口頭指導 ○観察指導 ○実務への参加による作業指導、作業点検指導等

○ その他の教育施設で実施する場合

深化・発展させる資質能力	深化・発展させて欲しい項目	指導方法等
力量ある「新人教員」に必要な基本的能力・資質 (基礎能力発展実習及び学校教育実践研究の深化・発展)	(基礎能力発展実習及び学校教育実践研究の深化・発展) (具体的には、各教育施設のプログラムに即して決定する)	○教育施設監督者による講義・講話・口頭指導 ○観察指導 ○実部への参加による作業指導、作業点検指導等
力量ある「新人教員」に必要な学級経営能力・資質 (基礎能力発展実習の深化・発展及び学校教育実践研究の深化・発展)	(基礎能力発展実習及び学校教育実践研究の深化・発展) (具体的には、各教育施設のプログラムに即して決定する)	○教育施設監督者による講義・講話・口頭指導 ○観察指導 ○実務への参加による作業指導、作業点検指導等
力量ある「新人教員」に必要な子ども理解や授業力 (基礎能力発展実習の深化・	(基礎能力発展実習及び学校教育実践研究の深化・発展) (具体的には、各教育施設のプログラム	○教育施設監督者による講義・講話・口頭指導

発展及び学校教育実践研究の深化・発展)	に即して決定する)	○観察指導 ○実務への参加による作業指導、作業点検指導等
---------------------	-----------	---------------------------------

9 評価項目と評価の観点

評価項目	具体的な評価の観点
学校組織の一員として力量ある「新人教員」に必要な基本的能力・資質の深化・発展	<p>① 教員としての心構えやサービスを十分理解し、教員としての立場から行動することができる。</p> <p>② 所長や学校長、指導主事、指導教員等のアドバイスを受け入れて良好な人間関係をつくるとともに、自分の教育活動を振り返り、積極的に能力・資質の向上に取り組んでいる。</p> <p>③ 目的意識をもって、積極的に提言をしたり与えられた課題に取り組んだりすることができる。</p>
力量ある「新人教員」に必要な学級経営能力・資質の深化・発展（基礎能力発展実習の深化・発展）	<p>④ 一人ひとりの児童・生徒を理解するとともに、課題解決や作業活動にふさわしい集団づくりや適切な指導方法を選択して実施することができる。</p> <p>⑤ 問題が生じた場合などに、的確に判断するとともに必要に応じて指導者に報告・連絡・相談し、適切な処置や連携を取ることができる。</p> <p>⑥ 所内や校内・教室内などの環境整備や美化に努め、学級経営に必要な業務の能力を深め、発展させている。</p>
力量ある「新人教員」に必要な子ども理解や教科等の授業力の深化・発展（基礎能力発展実習の深化・発展）	<p>⑦ 児童・生徒の意欲を喚起したり、学習への興味・関心を高めたり、学習活動を活発にしたりできるような適切な指示・説明・示範等を行うことができる。</p> <p>⑧ 児童・生徒の学習活動を活発にしたり理解を助けたりするために、適切な方法を選択したり活用したりすることができる。</p> <p>⑨ 児童・生徒の学習や活動の後の評価や変容を分析することによって、自己の行った指導のあり方を省察し、問題点を明らかにすることができる。</p> <p>⑩ 授業や活動の後の問題点を踏まえて、授業や活動の構成や指導方法の改善を図ることができる。</p>

平成 年度教職実践開発専攻 インターンシップⅡ 実習成績評価票 (実習校・施設用)

実習生氏名 平成 年度入学 コース

1. 実習校 () 実習期間 平成 年 月 日 ~ 月 日

実習学年		指導担当教諭	
実習教科 (中高)		指導担当教諭	

2. 実習施設 () 実習期間 平成 年 月 日 ~ 月 日

主たる 実習内容		指導者	
-------------	--	-----	--

3. 出席状況

出席すべき 日数	出席日数	欠席日数	遅刻日数	早退日数	出勤率	備考

4. 評価の観点と到達度の評定

項目	具体的な評価の観点	評 価
学校組織の一員として力量ある「新人教員」に必要な基本的能力・資質の深化・発展	① 教員としての心構えやサービスを十分理解し、教員としての立場から行動することができる。	1 2 3 4 5
	② 所長や学校長、指導主事、指導教員等のアドバイスを受け入れて良好な人間関係をつくとともに、自分の教育活動を振り返り、積極的に能力・資質の向上に取り組んでいる。	1 2 3 4 5
	③ 目的意識をもって、積極的に提言をしたり与えられた課題に取り組んだりすることができる。	1 2 3 4 5
力量ある「新人教員」に必要な学級経営能力・資質の深化・発展	④ 一人ひとりの児童・生徒を理解するとともに、課題解決や作業活動にふさわしい集団づくりや適切な指導方法を選択して実施することができる。	1 2 3 4 5
	⑤ 問題が生じた場合などに、的確に判断するとともに必要に応じて指導者に報告・連絡・相談し、適切な処置や連携を取ることができる。	1 2 3 4 5

	⑥ 所内や校内・教室内などの環境整備や美化に努め、学級経営に必要な業務の能力を深め、発展させている。	1 2 3 4 5
力量ある「新人教員」に必要な子ども理解や教科等の授業力の深化・発展	⑦ 児童・生徒の意欲を喚起したり、学習への興味・関心を高めたり、学習活動を活発にしたりできるような適切な指示・説明・示範等を行うことができる。	1 2 3 4 5
	⑧ 児童・生徒の学習活動を活発にしたり理解を助けたりするために、適切な方法を選択したり活用したりすることができる。	1 2 3 4 5
	⑨ 児童・生徒の学習や活動の後の評価や変容を分析することによって、自己の行った指導のあり方を省察し、問題点を明らかにすることができる。	1 2 3 4 5
	⑩ 授業や活動の後の問題点を踏まえて、授業や活動の構成や指導方法の改善を図ることができる。	1 2 3 4 5
特記事項		

段 階	各段階の個数	小 計
5		
4		
3		
2		
1		
	合 計 点	

※ 適宜関連する項目を選択して、弾力的に評価する。

学 校 名

施 設 名

校長・施設長



Ⅱ 教育実習履修の流れ（学部新卒者等の教育実習）

学年	教育実習名 (単位数)	期間 (実施校)
M2	教育実践開発研究実習 (4)	10月～ 11月 (連携協力校)
	学校教育実践研究実習 (3)	4月～ 6月 (連携協力校)
M1	基礎能力発展実習 (3)	8月～ 9月 (附属学校)
学部 4年	教育実習Ⅲ (応用実習) (2)	5月～ (公立学校)
学部 3年	教育実習Ⅱ (基本実習) (3)	8月～ 9月 (附属学校)
学部 2年	教育実習Ⅰ (観察・参加)	6月 (附属学校)
学部 1年		

(注) インターンシップ実習Ⅱ (選択教科 1単位) については、M2の6月から1月に随時行うことができる。

Ⅲ 教育実習履修に際しての注意

1 連携協力校に提出する書類

	書 類	備 考
学校教育実践研究実習関連	学校教育実践研究実習用 出勤簿	※必要事項を記入の上、学校教育実践研究実習の前に実習校へ提出
	学校教育実践研究実習成績評価票	
	宣約書	
	学生調書	
	学校教育実践研究実習評価等依頼文書	
	返信用封筒	
インターンシップ実習Ⅱ関連	インターンシップ実習計画案	※研究指導教員の指導のもと計画を立案し、学校教育実践研究実習期間中に実習校に提出。学校が検討したものを受け取り、教務厚生係に提出。
	インターンシップⅡ実習記録簿	※インターンシップ実習Ⅱの前に教務厚生係で受け取り、実習校へ提出
	インターンシップ実習Ⅱ実習成績評価票	
	インターンシップ実習Ⅱ評価等依頼文書	
返信用封筒		
教育実践開発研究実習関連	教育実践開発研究実習用出勤簿	※教育実践開発研究実習のガイダンスで配付するので、必要事項を記入の上、事前に実習校へ提出
	教育実践開発研究実習成績評価票	
	教育実践開発研究実習評価等依頼文書	
	返信用封筒	

2 教育実習を履修するにあたって

(1) 教育実習生は必ず次の2種類の保険に加入していることを確認する。

- ① 学生教育研究災害傷害保険（略称「学研災」）
- ② 学生教育研究災害傷害保険付帯賠償責任保険（略称「学研賠」）

(2) インターンシップ実習Ⅱの計画（様式「インターンシップ実習Ⅱ計画案」）を、研究指導教員の指導のもと立案し、学校教育実践研究実習期間中に学校の教育実習担当者に提出すること。これを受けて学校は、インターンシップ実習Ⅱの実施計画を作成し、「インターンシップ実習Ⅱ計画案」に記入するので、それを受け取って教務厚生係に提出すること。

(3) 実習校が決まったら、挨拶及び事前打ち合わせに出向くこと。訪問に際して、連絡調整教員の指示を仰ぐこと。

(4) 教育実習に関する連絡は電子メールで行うので、こまめにチェックし、遺漏のないように気を付けること。

IV 教育実習の心得と注意

- 1 校長の定める職員の服務規程を遵守すること。
- 2 実習は、学校内外の多くの人々の労力と好意に支えられている。真摯な態度で全力で取り組むこと。実習校の指示に従わない場合には、途中で実習を打ち切る場合もある。無遅刻、無欠席、無早退を心がける。出勤簿の捺印、提出物の締め切り、集合時間の厳守など、社会人として守るべき事柄は、きちんと守る。また、感謝の気持ちで実習し、感謝の気持ちを素直に伝えるよう心がける。実習が終了したら、礼状を出す。また、就職の連絡なども忘れずに出すこと。
- 3 実習校で実習中に知ることになった児童・生徒に関する情報は、みだりに他人に漏らしたり、職務上の目的以外に利用したりすることは法律で厳しく禁じられている。絶対に守秘義務を守ること。また、人を差別したり、個人の名誉を毀損したりしてはいけない。基本的人権を侵害することがあってはならない。教職員としての服務規定を遵守すること。
- 4 体調の管理に細心の注意を払うこと。毎日の生活リズムを整えておくこと。定期健康診断は必ず受診しておくこと。はしかやインフルエンザの予防接種を受けておくこと。自分がかからないようにという意味だけではなく、児童・生徒への感染を防ぐという意味でもある。もし体調不良等の問題がある場合は、事前に申し出ること。また、実習中はできるだけ睡眠をとり、食生活にも注意すること。
- 5 なるべく徒歩、自転車、あるいは公共交通機関を利用して通勤すること。自家用車を利用する場合は、必ず実習校と相談した上で許可を取ること。車で通勤する場合には、交通安全を心がけること。飲酒運転等は絶対にしてはならない。また、異性による車での送迎は、生徒たちを刺激するというので実習校からの要望により禁止されている。
- 6 教師としての品位を保つような言動を心がけ、服装も実習にふさわしいものにすること。だらしない服装、刺激的で派手な服装、華美なアクセサリ、濃い化粧、マニキュアなどの場にふさわしくない服装は厳禁である。勤務中の携帯電話の使用については、実習校の指示に従い、不必要な使用は避ける。菓子等を食すること、喫煙についても、実習校の指示に従うこと。学校以外で、実習校の児童・生徒と個人的に接触することやメールアドレスを交換することなどは厳禁である。

7 教材や資料を準備しておくこと。「学習指導案」の形式や内容、授業方法などは、実習校の方針に従うこと。

V 教育実習の自己評価について

(1) 根拠資料を収集する

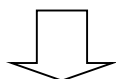
- ・ 学習指導案
- ・ コメント ※口頭でのコメントもメモしていく
- ・ 実習録 ※何を記録するのかを意識する
- ・ 配布資料
- ・ ベタ記録 など



(2) 根拠資料を整理する

- ・ 分類する
- ・ 見解をまとめる（自己評価に基準と根拠例を明記する）

教育実習では（1）（2）を繰り返してくる



(3) 指導教員の指導を受ける

VI 各種様式（例）

平成 年度

学校名 _____

出勤簿

実習生名 _____

五 畿 大 学 教 育 学 研 究 科 教 育 実 習 生

平成 年度 教育実習生出勤簿

実習生名 _____ 学年 _____

月	日	出席		欠席		遅刻		早退		備考
		○	△	○	△	○	△	○	△	
9	1									
9	2									
9	3									
9	4									
9	5									
9	6									
9	7									
9	8									
9	9									
9	10									
9	11									
9	12									
9	13									
9	14									
9	15									
9	16									
9	17									
9	18									
9	19									
9	20									
9	21									
9	22									
9	23									
9	24									
9	25									
9	26									
9	27									
9	28									
9	29									
9	30									
9	31									

誓約書

助

本校直轄において教育実習を受講することについては、貴学校の運営に支障のないように、校長、教職員の方々の御協に依ることを誓約いたします。

教育学研究科教職実践履修専攻 コース

氏 名 〇〇

上記学生の教育実習については「教育実習の心得」を堅く守らせると共に、これらの学生に係る責任は本研究科において引き受けることを誓約いたします。

平成 〇〇年 〇〇月 〇〇日

宮崎大学大学院教育学研究科長

誓約書

宮崎県立〇〇小学校長 様

本校直轄において教育実習を受講することについては、貴学校の運営に支障のないように、校長、教職員の方々の御協に依ることを誓約いたします。

教育学研究科教職実践履修専攻 **教育課程・学校実践** コース

氏 名 **宮大 花子** 〇〇

上記学生の教育実習については「教育実習の心得」を堅く守らせると共に、これらの学生に係る責任は本専攻において引き受けることを誓約いたします。

平成 〇〇年 〇〇月 〇〇日

宮崎大学大学院教育学研究科長

教育実習 学生調書
(学校教育実践研究実習・教育実践開発研究実習)

宮崎大学 教育学研究科

平成	年度入学	教職実践開発専攻	コース				
ふりがな							
氏名							
生年月日	昭和・平成 年 月 日生						
現住所	〒 ー TEL〔携帯〕 〔自宅〕						
帰省先	〒 ー TEL〔自宅〕						
実習期間中の住所	〒 ー TEL〔携帯〕 〔自宅〕						
免許状	種別	教科	取得(見込) 年月日	種別	教科	取得(見込) 年月日	免許状記載例 中1種・国語・平成 27. 3. 31 高1種・国語・平成 27. 3. 31 見込
教育実習の履歴							
実習名	既習の学習学年	実習校名			期間		
					. . ~ . .		
					. . ~ . .		
					. . ~ . .		

			・ ・ ～ ・ ・
基礎能力発展			・ ・ ～ ・ ・

研究課題	題 目		
	概 要		
	実習において 取り組みたい 課題	学校教育実践研究実習	
		教育実践開発研究実習	

教育実習 学生調書記入例
(学校教育実践研究実習・教育実践開発研究実習)

宮崎大学 教育学研究科

平成 28 年度入学		教職実践開発専攻		教育課程・学習開発		コース	
ふりがな		みやだい はなこ					
氏名		宮大 花子 (E1603***)					
生年月日		昭和・平成 ○年 □月 △日生					
現住所		〒 889 - 2192 TEL [携帯] 090 - **** - **** [自宅] 0985 - 58 -**** 宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 ○○マンション101号室					
帰省先		〒 885 - 8555 TEL [自宅] 0986 - 23 - **** 宮崎県都城市姫城町○街区○号					
実習期間中の住所		〒 889 - 2192 TEL [携帯] 090 - **** - **** [自宅] 0985 - 58 -**** 宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 ○○マンション101号室					
免許状	種別	教科	取得(見込)年月日	種別	教科	取得(見込)年月日	免許状記載例 中1種・国語・ 平成 27.3.31 高1種・国語・ 平成 27.3.31 見込
教育実習の履歴							
実習名	既習の学習学年	実習校名				期間	
						. . ~ . .	
						. . ~ . .	
						. . ~ . .	

			・ ・ ～ ・ ・
基礎能力発展			・ ・ ～ ・ ・

研究課題	題 目		
	概 要		
	実習において 取り組みたい 課題	学校教育実践研究実習	
		教育実践開発研究実習	

責任者氏名
施設②での実習予定期間 平成 年 月 ~ 平成 年 月
施設②で予定される業務の内容
実習予定施設③種別 <input type="checkbox"/> 連携協力校 <input type="checkbox"/> 公立学校 <input type="checkbox"/> 私立学校 <input type="checkbox"/> 宮崎県教育機関 <input type="checkbox"/> 宮崎市教育機関 <input type="checkbox"/> その他 ()
実習予定施設③名称等 名称 住所 電話番号 責任者氏名
施設③での実習予定期間 平成 年 月 ~ 平成 年 月
施設③で予定される業務の内容

確認項目（確認の上☑を記入）

- 上記予定施設責任者とすでに連絡を取り，実習実施の許可を得ている。
- 学校教育実践研究実習および教育実践開発研究実習の期間に業務予定はない。
- その他教職大学院での学修の妨げとなる業務予定はない。
- 学生教育研究災害傷害保険等に加入している。

指導教員

印

インターンシップ実習Ⅱ 計画案

学校名					※学校記入欄
専攻	教職実践開発	専攻	氏名	※素案を学校で検討し、実情に合わせて実施日時を決定し記入してください。	
コース	コース				
番号	実習内容	時期	時間 (累計)	備考	実施日時・時間・累計
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
研究指導教員氏名					印
学校名			校長氏名		印

※学校教育実践研究実習終了後、速やかに教務厚生係に提出

インターンシップ実習 計画案(記入例)

学校名					※学校記入欄
専攻	教職実践開発	専攻		氏名	※素案を学校で検討し、実情に合わせて実施日時を決定し記入してください。
コース		コース		氏名	
番号	実習内容	時期	時間 (累計)	備考	実施日時・時間・累計
1	インターンシップ実習事前指導	4月	3時間 (3時間)	※大学にて実施	/
2	算数科第3学年の指導	6月	5時間 (8時間)	学校教育実践研究実習中に終わらなかった単元の残りの指導	6月6日(月) 2・3校時 6月7日(火) 3・4校時 6月8日(水) 1校時 合計 5時間 (累計 5時間)
3	算数科少人数指導	9月 ～ 10月	20時間 (28時間)	毎週4～5時間程度、1単元を2学級分	9月中の第4学年1組、2組算数「面積」の少人数指導への参画 合計 20時間 (累計 25時間)
4	運動会前日準備及び当日の指導	10月	12時間 (40時間)	前日準備4時間 当日 8時間	10月1日(土) 13時～17時 10月2日(日) 8時～16時 合計 12時間 (累計 37時間)
5	インターンシップ実習事後指導	10月	5時間 (45時間)	※大学にて実施	/
6					
7					
研究指導教員氏名					印
学校名			校長氏名		印

※学校教育実践研究実習終了後、速やかに教務厚生係に提出

別紙③ インターンシップ実習Ⅱ 実習生記録簿（教職実践開発専攻）

平成 年 月 インターンシップ実習Ⅱ 実習生記録簿（教職実践開発専攻）												
所属学部・専攻					実習先名称							
日	時	分	時	分	日	時	分	日	時			
月	日	時	分	時	月	日	時	分	時			
種別	時間	時間	時間	時間	種別	時間	時間	時間	時間			
実習内容	実習内容	実習内容	実習内容	実習内容	実習内容	実習内容	実習内容	実習内容	実習内容			
日	時	分	日	時	分	日	時	分	日			
月	日	時	分	時	月	日	時	分	時			
種別	時間	時間	時間	時間	種別	時間	時間	時間	時間			
実習内容	実習内容	実習内容	実習内容	実習内容	実習内容	実習内容	実習内容	実習内容	実習内容			
日	時	分	日	時	分	日	時	分	日			
月	日	時	分	時	月	日	時	分	時			
種別	時間	時間	時間	時間	種別	時間	時間	時間	時間			
実習内容	実習内容	実習内容	実習内容	実習内容	実習内容	実習内容	実習内容	実習内容	実習内容			
合計時間数				時間	実習回数				回	実習先 担当者氏名		氏名

別紙④ インターンシップ実習Ⅱ報告書

各領域の具体的な評価項目に関する実習での具体的な学習成果を記入してください。またそれぞれの学びについてエビデンスとなる書類を添付してください。

基本的能力・資質	
学級経営能力・資質	
子ども理解・授業力	

学籍番号 () 氏名 ()

指導教員 () 印

実習記録

指導教員印

指導教員印	
